

丹沢ボラネット瓦版

2014年3月号 No.88



ウラジロモミ等防護ネット設置事業

丹沢自然保護協会 酒井 明子

平成 25 年 11 月 16 日（土）、秋晴れの抜けるような青空のもと、平成 14 年度から続く丹沢ボラネット協働事業ウラジロモミ等のネット設置が実施されました。参加者はボラネット 7 団体、20 名と、自然環境保全センターからは、益子所長をはじめ、パークレンジャー 3 名他 7 名の計 27 名でした。

この事業は、シカのウラジロモミの樹皮食いを防ぐ目的のネットの補修作業が主なものですが、今回はシカの食害から植物を守るための植生保護柵内のネットを外す作業も行われました。

堂平から実施場所に到着するまでは、1・2 班それぞれパークレンジャーより、丹沢での自然環境保護への取り組みを説明していただき、自然再生への思いが一層深まりました。

さらに、参加者みなさんと一緒にネット巻きの補修作業をすることによって、ボラネット団体それぞれの垣根を超えた一体感も生まれたような気がしました。

このウラジロモミのしっかりとした成長を願い、また丹沢の明るい未来が残せるように、これからも様々な活動を続けていきたいと思いました。



ネットの巻き直しのほか樹種の確認、幹の測定

とても美しいイヌブナの黄葉



これまでの設置状況（平成 10 年 11 月～平成 25 年 11 月）

実施回数	参加者総数	ネット設置本数(補修)	ネット撤去本数
15 回	778 人	1127 本 (779 本)	23 本

平成 23 年度は台風の影響により中止

丹沢再生森づくり活動報告

NPO 法人 みろく山の会 木原 操

みろく山の会は、丹沢の森づくりをヤビツの森とヤドリキ水源林の 2 箇所で開催しています。

ヤビツの森は、ヤビツ峠から岳ノ台方面の登山道沿い 20 分程の所にあります。2001 年に 1500 本の植樹を実施し順調に育っていましたが、一部が鹿の食害による立ち枯れで空白部分が発生しました。この空白部分に 2011 年～2012 年に 60 本を植樹し順調に育っています。今後は下草刈りをメインに活動予定です。

ヤドリキ水源林は、寄大橋から雨山峠方面の登山道沿い 40 分程の所にあります。2009 年から活動を開始し、灌木、ススキなどが生茂った荒地を整備しながら 2010 年～2012 年に 3 回、計 350 本の植樹を行いました。

4 回目を 2013 年 11 月 16 日、三菱 UFJ 環境財団から提供頂いたヤマザクラ、ヤマボウシ、クヌギ、コナラ、ケヤマハンノキ各 20 本計 100 本を植樹しました。苗木にはそれぞれの樹種名を入れたテープを付けて、出来るだけ同じ種類の苗木が隣り合わないよう配置し植え付けました。最後に支柱を立て先ずは春の芽吹きを願ってこの日の植樹を終えました。

過去 3 年間（3 回）の植樹の一部に食害を受けて立ち枯れたものもありますが、概ね順調に成長しており、中には樹高 3 m 程に成長したものもあります。

森づくりはサイクルの長い活動ですが、今後も下草刈りをしっかり実施して成長を助け、また荒地を整備しながら植樹を続けて行きたいと思います。



丹沢大山自然再生委員会活動報告会

平成 26 年 2 月 2 日（日）、相模原市橋本で「丹沢大山自然再生委員会活動報告会」が開催されました。ボラネットは再生委員会の構成団体でもあり、これまでも「地球環境イベントアジェンダの日」（5月）や「丹沢フォーラム（4月）」、「高校生が取り組む丹沢やまみち再生体験（1月）」など、多くの皆様が運営に参加協力しています。

今回の報告会では、ボラネット 3 団体の活動状況が報告され、その活動報告を聞いてさらにパネラーや会場からの意見交換が活発に行われました。

皆さん、丹沢大山の環境保全、自然再生に本当に熱心な方ばかりです。



神奈川県山岳連盟 松隈 豊氏

「清川村における里山再生・『煤ヶ谷の森』森林整備」

NPO法人北丹沢山岳センター 加藤 博恵氏

「相模原市青根における神の川広河原の植林、下草刈、シカ柵補修」

町田グlaus山の会 安田 優氏

「相模原市鳥屋『魚止めの森』森林整備及び秦野市ヤビツ峠における清掃」

平成 26 年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

実施日 平成 26 年 4 月 12 日（土） 13:15～

場 所 自然環境保全センターレクチャールーム

議 題 平成 25 年度事業・決算報告、平成 26 年度事業計画・予算ほか

水質調査の実施協力団体を募集します！

平成 26 年度水質調査の見直しを行っています。ボラネットの水質調査は、丹沢大山総合調査広報県民部会公募型事業を引き継ぎ、実施箇所や検査方法の見直しながら実施されてきました。ボラネットの事業を他の団体にも経験してもらおうという意見のもと、新たに調査に協力していただける団体を募集するものです。詳細は総会でご説明します、ご協力よろしくお願ひします。

ボラネット瓦版へ団体の情報を掲載しませんか？

団体のイベント情報などを随時募集、掲載します。ボラネット世話人または自然環境保全センター自然保護課へお問合せください。

2013年度NPO法人丹沢自然学校研究報告

丹沢自然学校 佐藤 休三

丹沢自然学校では2010年度より定点観測とブナの実生の調査を行ってきました。定点観測はツツジ新道のゴーラ沢渡渉地点から山頂までの9地点、12カ所に観測地点を設けて、経年変化を比較調査しています。ブナの実生については畦ヶ丸に3ヶ所の区域を設け調査しています。

ブナの立ち枯れなど変化について

下の写真 ~ は2010年~2013年10月上旬の定点写真です。場所は檜洞丸頂上直下の写真です。山頂直下ではブナの樹勢の衰弱、立ち枯れがはっきりと見て取ることができます。



2010年10月



2011年10月



2012年4月



2013年10月

写真中央の大きい枯木の右側を見て下さい。少なくとも2本以上は倒木になった事が解ります。2013年には2本の立枯木になってしまいました。その上若い木が育っていないです。草原化が進行しています。写真中央の大枯木の左側の樹木を見て下さい。ここでは葉の付き方から樹勢の衰弱が明らかに見られます。この4年間だけでも、ブナ林の衰弱と立ち枯れがはっきりと確かめられました。単なる「ブナ林の枯木、倒木」だけの問題なら問題が小さいのですが、世代交代が進まなく、草地化の進行がより大きな問題です。

スズタケ後退について

2010年10月上旬



2013年10月上旬



上の2枚の写真はゴーラ沢上ベンチ付近のもので、2010年には、まだ葉をつけて密集していました。ところが4年後の2013年には背丈も短くなり、ほとんど枯れた状態になっていました。スズタケの後退は進行具合に差はあるが、ツツジ新道全体で観察されています。これも大きな問題です。

畦ヶ丸のブナの実生について



2011年は約10本の実生あり



2013年には3本の実生あり

畦ヶ丸の実生調査は今年度から新たに3か所の調査地点を定め、継続的に変化を調査します。第1回調査では地点（およそ長さ8×幅2mのエリア）に10本、地点（9×2m）に7本、（9×2m）に同じく7本の実生を見ることができました。2011年6月の実生は同年、8月にはほとんどが姿を消すという状態でした。今の丹沢は、自然発生実生の若いブナが生き残るのには、大変に厳しい環境である事がわかりました。わずかに生き残ったブナは枯れ枝に囲まれていました。このことから、ブナの実生に簡単な覆いをすることで生き残る可能性が見いだせるかもしれません。

ツツジ新道ではほとんど見ることができないブナの実生が畦ヶ丸で多く観察できますのは、それぞれの立地環境にあるように思われます。その理由が明らかになることで、丹沢ブナ林等保全のヒントが得られます。丹沢自然学校の調査活動が丹沢の環境保全等に役立つことを願い、今後も観察研究を続けてまいります。